

～学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業の取組事例～

「郷土に想いを寄せる同窓会」事業 (国立大学法人福島大学うつくしまふくしま未来支援センター)



取組の基本理念

原発事故により避難を強いられ、不安感や不信感、心理的ストレス等を高めた子どもたちが、故郷に想いを寄せることを通して、新たな環境においても自分らしく、主体的に活動する力を高めることができるような支援を行う。

事業概要

- ・ 同じ地域に住んでいながら、原発事故により離ればなれになった子どもたちが集まり、安心できる仲間や地域の方々と共に活動
- ・ 実施対象地域や子どもたちの実態を把握し、実情に応じたプログラムを作成
- ・ 子どもたちが自主的・主体的にすることができるような教育的支援を実施
- ・ 郷土に想いを寄せることができるような郷土(地元)の住民や伝統芸能とのふれあいの場を設定
- ・ 県内外避難者のストレスの軽減を図ることができるような時間と場を設定
- ・ 教育的支援を行うことができるような支援者を活用

取組の概要

実施プログラムの例	
時間	予定
1日目	
14:00	開会式
14:15	活動プログラム1「みんなで遊ぼう」
14:30	活動プログラム2「カレーオリエンテーリング」
16:00	活動プログラム3「野外炊飯」
19:00	活動プログラム4「飯館村ってすてきだね」
2日目	
9:00	活動プログラム5「世界に一つだけの宝物をつくらう」
13:00	閉会式
運営協力団体等	
主催	うつくしまふくしま未来支援センター
共催	実施市町村教育委員会
後援	三菱UFJニコス株式会社
協賛	株式会社ニコン・資生堂
協力	避難元市町村住民の皆様
	避難先市町村住民の皆様

実施の効果

- ・ 安心できる場で安心できる仲間と一緒に過ごすことによって、子どもも保護者も自分らしさを取り戻し、新たな環境においても踏ん張ろうとするエネルギーを得ることができた。
- ・ 子どもの実態に応じた意図的な支援を通して、子どもたちの自主性や自己肯定感等を高めることができた。
- ・ 郷土の伝統や文化・人とふれあうことを通して、郷土のよさを改めて感じる事ができた。
- ・ 保護者同士の会話や保護者カウンセリングを通して、情報を交換したり保護者のストレス軽減を図ったりすることができた。
- ・ 同窓会事業への支援をきっかけに、地域での大人の繋がりを再生し、活発化した。

